



Red Hat Directory Server 11

リリースノート

Red Hat Directory Server 11 (11.7) に関連する注目すべき機能と更新

Red Hat Directory Server 11 リリースノート

Red Hat Directory Server 11 (11.7) に関連する注目すべき機能と更新

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本リリースノートでは、Red Hat Directory Server 11 での改良点および実装された追加機能の概要、本リリースにおける既知の問題などを説明します。また、重要なバグ修正、テクニカルレビュー、非推奨の機能などの詳細も説明します。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
第1章 全般情報	4
1.1. DIRECTORY SERVER のサポートポリシーとライフサイクル	4
1.2. 一般的なハードウェア要件	4
1.3. ソフトウェアの競合	5
1.4. DIRECTORY SERVER 11 への移行に関する注意事項	5
第2章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.7	7
2.1. システム要件	7
2.2. 重要な更新および新機能	8
2.3. バグ修正	8
2.4. 既知の問題	8
第3章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.6	10
3.1. システム要件	10
3.2. 主な更新と新機能	11
3.3. 既知の問題	11
第4章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.5	13
4.1. システム要件	13
4.2. 主な更新と新機能	13
4.3. テクノロジープレビュー	14
4.4. 既知の問題	14
第5章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.4	16
5.1. システム要件	16
5.2. 主な更新と新機能	16
5.3. バグ修正	17
5.4. 既知の問題	18
第6章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.3	19
6.1. システム要件	19
6.2. 主な更新と新機能	20
6.3. バグ修正	20
6.4. 既知の問題	21
第7章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.2	22
7.1. システム要件	22
7.2. 主な更新と新機能	23
7.3. バグ修正	23
7.4. 既知の問題	23
第8章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.1	25
8.1. システム要件	25
8.2. 強調表示された更新と新機能	26
8.3. バグ修正	26
8.4. 既知の問題	26
8.5. 削除された機能	27
第9章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.0	28
9.1. システム要件	28
9.2. 主な更新と新機能	29
9.3. 既知の問題	30

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#)をご覧ください。

第1章 全般情報

この章では、マイナーバージョンに関係なく、Red Hat Directory Server 11 に関する一般的な情報について説明します。

1.1. DIRECTORY SERVER のサポートポリシーとライフサイクル

詳細は [Red Hat Directory Server のエラータサポートポリシー](#) を参照してください。

1.2. 一般的なハードウェア要件

ハードウェア要件は、次の前提条件で実行されたテストに基づいています。

- サーバーはデフォルトのインデックスを使用します。
- 各 LDAP エントリーのサイズは 1.5 KB で、30 以上の属性があります。

1.2.1. ディスク容量

次の表に、エントリー数に基づいた Directory Server の推奨ディスク容量のガイドラインを示します。

表1.1 必要なディスク容量

エントリー数	データベースのサイズ	データベースキャッシュ	サーバーとログ	総ディスク容量
10,000 - 500,000	2 GB	2 GB	4 GB	8 GB
500,000 - 1,000,000	5 GB	2 GB	4 GB	11 GB
1,000,000 - 5,000,000	21 GB	2 GB	4 GB	27 GB
5,000,000 - 10,000,000	42 GB	2 GB	4 GB	48 GB

総ディスク容量には、バックアップおよびレプリケーションメタデータ用の容量は含まれません。レプリケーションを有効にすると、そのメタデータは合計ディスク容量の最大 10% を必要とする場合があります。

100 万の変更があるレプリケーション changelog では、合計ディスク容量要件に少なくとも 315 MB が追加される可能性があります。

/dev/shm/ にマウントされた一時ファイルシステム (tmpfs) には、RHDS 一時ファイルを格納するために少なくとも 4 GB の空き容量が必要です。

1.2.2. 必要な RAM

データベース全体をキャッシュに保持するのに十分な RAM がシステムにあることを確認してください。サーバーの設定と使用パターンによっては、必要な RAM サイズが推奨サイズよりも大きくなる場合があります。

表1.2 必要な RAM サイズ

エントリー数	エントリーキャッシュ	レプリケーション付きエントリーキャッシュ [a]	データベースキャッシュ	DN キャッシュ	NDN キャッシュ	合計 RAM サイズ [b]
10,000 - 500,000	4 GB	5 GB	1.5 GB	45 MB	160 MB	7 GB
500,000 - 1,000,000	8 GB	10 GB	1.5 GB	90 MB	320 MB	12 GB
1,000,000 - 5,000,000	40 GB	50 GB	1.5 GB	450 MB	1.6 GB	54 GB
5,000,000 - 10,000,000	80 GB	100 GB	1.5 GB	900 MB	3.2 GB	106 GB

[a] レプリケーション付きエントリーキャッシュには、エントリーのレプリケーション状態とメタデータが含まれます。

[b] 合計 RAM サイズは、レプリケーションが有効になっていることを前提としています。

1.3. ソフトウェアの競合

Directory Server は、Red Hat Enterprise Linux アイデンティティ管理 (IdM) サーバーがインストールされているシステムにはインストールできません。同様に、Directory Server インスタンスを持つシステムには Red Hat Enterprise Linux IdM サーバーをインストールできません。

1.4. DIRECTORY SERVER 11 への移行に関する注意事項

既存の Directory Server 10 環境を Directory Server 11 に移行する場合は、次の情報を考慮してください。

Directory Server 11 コマンドラインユーティリティーの使用

Directory Server 11 には、サーバーインスタンスおよびユーザーを管理するための新しいコマンドラインユーティリティーが用意されています。これらのユーティリティーは、Directory Server 10 およびそれ以前のバージョンで管理タスクに使用される Perl スクリプトに代わるものです。

以前のバージョンのコマンドと、Directory Server 11 における代替コマンドは、**Red Hat Directory Server インストールガイド**の付録 [Red Hat Directory Server 11 で置き換えられたコマンドラインユーティリティー](#) を参照してください。



重要

Directory Server 10 以前のバージョンの管理タスクに使用される Perl スクリプトは、**389-ds-base-legacy-tools** パッケージで引き続き利用できます。ただし、Red Hat は、新しいコマンドラインユーティリティーの **dsconf**、**dsctl**、**dscreate**、および **dsidm** のみをサポートします。

Directory Server 11 のデフォルトのパスワード保存スキームが **PBKDF2-SHA512** に変更されました。

Directory Server 11 は、デフォルトのパスワードストレージスキームとして **PBKDF2-SHA512** スキームを使用します。これは、**SSHA**、**SSHA512**、およびその他のスキームよりも安全です。したがって、**freeradius** などの一部のアプリケーションが **PBKDF2-SHA512** スキームをサポートしておらず、強度の弱いパスワード保存スキームを設定し直す必要がある場合は、アプリケーションがユーザーエントリーを追加または変更したときだけでなく、バインド操作が成功したときも、Directory Server がユーザーパスワードを更新する点に注意してください。ただし、**cn=config** エントリーの **nsslapd-enable-upgrade-hash** パラメーターを **off** に設定すると、バインド操作で更新を無効にできます。

移行手順

Directory Server 10 を Directory Server 11 に移行する手順は、[Red Hat Directory Server インストールガイド](#) の該当する章を参照してください。

第2章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.7

新しいシステム要件、更新と新機能、既知の問題、Directory Server 11.7 に実装された非推奨の機能について説明します。

2.1. システム要件

2.1.1. ハードウェア要件

ハードウェア要件の完全なリストは、一般情報の章の [ハードウェア要件](#) のセクションを参照してください。

2.1.2. ソフトウェア要件

Directory Server パッケージ、Web コンソール、および Windows 同期に必要なプラットフォームについて説明します。

2.1.2.1. Directory Server でサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、次のプラットフォームで実行される Directory Server 11.7 をサポートします。

- AMD64 および Intel 64 アーキテクチャー向けに構築された Red Hat Enterprise Linux 8.8。
- 認定済みのハイパーバイザー上の Red Hat Enterprise Linux 仮想ゲスト。詳細は、ナレッジベースソリューション [Red Hat Enterprise Linux の実行が認定されているハイパーバイザー](#) を参照してください。

2.1.2.2. Web コンソールの Directory Server ユーザーインターフェイスでサポートされているプラットフォーム

Red Hat は、以下の環境の Web コンソールでブラウザーベースの Directory Server ユーザーインターフェイスをサポートします。

オペレーティングシステム	ブラウザー
Red Hat Enterprise Linux 8.8	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 102.11.0 以降 ● Chrome 88 以降
Windows Server 2016 および 2019:	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 102.11.0 以降 ● Chrome 88 以降
Windows 10	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 102.11.0 以降 ● Microsoft Edge 88 以降 ● Chrome 88 以降

2.1.2.3. Windows Synchronization ユーティリティーでサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下で実行される Active Directory 用の Windows 同期ユーティリティーをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2019
- Microsoft Windows Server 2016

2.2. 重要な更新および新機能

Directory Server 11.7 の新機能と重要な更新について説明します。

Directory Server がバージョン 1.4.3.34 にリベース

389-ds-base パッケージはアップストリームバージョン 1.4.3.34 にアップグレードされました。

389-ds-base パッケージの重要な更新と新機能

389-ds-base パッケージに含まれる Red Hat Directory Server の機能は、Red Hat Enterprise Linux 8.8 リリースノートに記載されています。

- [Directory Server 監査ログ用の新しい `nsslapd-auditlog-display-attrs` 設定パラメーター](#)
- [Directory Server が TLS の ECDSA 秘密キーをサポートするようになりました。](#)
- [新しい `pamModuleIsThreadSafe` 設定オプションが利用可能になりました](#)

2.3. バグ修正

Red Hat Directory Server 11.7 で修正された、ユーザーに重大な影響を与えるバグについて説明します。

389-ds-base パッケージのバグ修正

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server のバグ修正は、Red Hat Enterprise Linux 8.8 リリースノートに記載されています。

- [変更ログの圧縮をスケジュールした時間が正しく機能するようになりました](#)

2.4. 既知の問題

Directory Server 11.7 の既知の問題と、該当する場合は回避策について説明します。

FIPS モードでの Directory Server のインストール時にアクセスログにエラーメッセージが表示されます。

FIPS モードで Directory Server をインストールすると、アクセスログファイルに次のエラーメッセージが表示されます。

```
[time_stamp]
- WARN - slapd_do_all_nss_ssl_init - ERROR: TLS is not enabled, and the
machine is in FIPS mode. Some functionality won't work correctly (for
example, users with PBKDF2_SHA256 password scheme won't be able to log
in). It's highly advisable to enable TLS on this instance.
```

このような動作が発生するのは、Directory Server により、まず、TLS が初期化されていないことが検出され、エラーメッセージが記録されるためです。ただし、後で **dscreate** ユーティリティーが TLS の初期化を完了し、セキュリティを有効にすると、エラーメッセージは表示されなくなります。

(BZ#2153668)

Web コンソールのウィンドウ外部で変更された **Directory Server** の設定が自動的に表示されない

Red Hat Enterprise Linux 8 Web コンソールの Directory Server モジュールの設計により、ユーザーがコンソールのウィンドウの外部で設定を変更しても、Web コンソールには自動的に最新の設定が表示されません。たとえば、Web コンソールが開いている間にコマンドラインを使用して設定を変更すると、Web コンソールで新しい設定が自動的に更新されません。これは、別のコンピューターの Web コンソールを使用して設定を変更する場合でも当てはまります。この問題を回避するには、コンソールのウィンドウ外部で設定が変更された場合は、ブラウザで Web コンソールを手動で更新します。

(BZ#1654281)

Directory Server で接尾辞の **referral** の設定に失敗する。

Directory Server でバックエンド参照を設定すると、**dsconf <instance_name> backend suffix set --state referral** コマンドを使用したバックエンドの状態設定に失敗し、次のエラーが表示されます。

```
Error: 103 - 9 - 53 - Server is unwilling to perform - [] - need to set nsslapd-referral before moving to referral state
```

これにより、接尾辞の参照の設定に失敗します。この問題を回避するには、以下のコマンドを実行します。

1. **nsslapd-referral** パラメーターを手動で設定します。

```
# ldapmodify -D "cn=Directory Manager" -W -H ldap://server.example.com

dn: cn=dc\3Dexample\2Cdc\3Dcom,cn=mapping tree,cn=config
changetype: modify
add: nsslapd-referral
nsslapd-referral: ldap://remote_server:389/dc=example,dc=com
```

2. バックエンド状態を設定します。

```
# dsconf <instance_name> backend suffix set --state referral
```

その結果、回避策により、接尾辞の参照を設定できます。

(BZ#2063033)

レプリケーションマネージャアカウントのパスワードを変更した後に **Directory Server** のレプリケーションに失敗する

Directory Server では、パスワード変更後に、レプリカ合意のパスワードキャッシュが適切に更新されません。そのため、レプリケーションマネージャアカウントのパスワードを変更すると、レプリケーションが破損します。この問題を回避するには、Directory Server インスタンスを再起動します。その結果、キャッシュは起動時に再ビルドされ、レプリケーション接続は古いパスワードではなく新しいパスワードにバインドします。

(BZ#2101473)

389-ds-base パッケージの既知の問題

389-ds-base パッケージに影響する Red Hat Directory Server の既知の問題は、Red Hat Enterprise Linux 8.8 リリースノートに記載されています。

- NSS で有効になっている暗号の **default** キーワードは、他の暗号とは機能しない (BZ#1817505)

第3章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.6

Directory Server 11.6 に実装された新しいシステム要件、主な更新および新機能、既知の問題、および非推奨の機能について説明します。

3.1. システム要件

ここでは、Directory Server 11.6 に推奨されるハードウェアおよびソフトウェア要件を確認できます。

3.1.1. ハードウェア要件

ハードウェア要件の完全なリストは、一般情報の章の [ハードウェア要件](#) のセクションを参照してください。

3.1.2. ソフトウェア要件

Directory Server パッケージ、Web コンソール、および Windows 同期に必要なプラットフォームについて説明します。

3.1.2.1. Directory Server でサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、AMD64 および Intel 64 アーキテクチャー用に構築された Red Hat Enterprise Linux 8.7 のみ Directory Server 11.6 をサポートします。

Directory Server 11.6 は、認定ハイパーバイザー上の Red Hat Enterprise Linux 仮想ゲストでの実行がサポートされています。詳細は、ナレッジベースソリューション [Red Hat Enterprise Linux の実行が認定されているハイパーバイザー](#) を参照してください。

3.1.2.2. Web コンソールの Directory Server ユーザーインターフェイスでサポートされているプラットフォーム

Red Hat は、以下の環境の Web コンソールでブラウザーベースの Directory Server ユーザーインターフェイスをサポートします。

オペレーティングシステム	ブラウザー
Red Hat Enterprise Linux 8.7	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 102.3.0 以降 ● Chrome 88 以降
Windows Server 2016 および 2019:	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 102.3.0 以降 ● Chrome 88 以降
Windows 10	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 102.3.0 以降 ● Microsoft Edge 88 以降 ● Chrome 88 以降

3.1.2.3. Windows Synchronization ユーティリティーでサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下で実行される Active Directory 用の Windows 同期ユーティリティーをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2019
- Microsoft Windows Server 2016

3.2. 主な更新と新機能

このセクションでは、Directory Server 11.6 の新機能と重要な更新について説明します。

Directory Server がバージョン 1.4.3.31 にリベース

389-ds-base パッケージはアップストリームバージョン 1.4.3.31 にアップグレードされました。

LDAP ブラウザーへの完全対応

この機能拡張により、Web コンソールの **LDAP Browser** タブから LDAP エントリーを管理できます。たとえば、以下を行うことができます。

- ツリー ビューまたは テーブル ビューを使用してディレクトリーを参照します。
- ユーザー、グループ、組織単位 (OU)、カスタムエントリーなどのエントリーを管理します。
- アクセス制御命令 (ACI) を管理します。
- サービス定義 (CoS) のクラスを管理します。
- エントリーを検索します。

389-ds-base パッケージで強調表示された更新と新機能

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の機能は、Red Hat Enterprise Linux 8.7 リリースノートに記載されています。

- [Directory Server が Auto Membership プラグインタスクのキャンセルに対応](#)
- [ディレクトリーサーバーが **ldapdelete** 使用時の再帰的な削除操作に対応](#)
- [ディレクトリーサーバーインストール時における基本的な複製オプションの設定に対応](#)
- [ディレクトリーサーバーでレプリケーション変更ログのトリミングがデフォルトで有効化](#)

3.3. 既知の問題

このセクションでは、Directory Server 11.6 の既知の問題と、該当する場合の回避法について説明します。

Web コンソールのウィンドウ外部で変更された Directory Server の設定が自動的に表示されない

Red Hat Enterprise Linux 8 Web コンソールの Directory Server モジュールの設計により、ユーザーがコンソールのウィンドウの外部で設定を変更しても、Web コンソールには自動的に最新の設定が表示されません。たとえば、Web コンソールが開いている間にコマンドラインを使用して設定を変更すると、Web コンソールで新しい設定が自動的に更新されません。これは、別のコンピューターの Web コンソールを使用して設定を変更する場合でも当てはまります。この問題を回避するには、コンソールのウィンドウ外部で設定が変更された場合は、ブラウザーで Web コンソールを手動で更新します。

(BZ#1654281)

Directory Server で接尾辞の **referral** の設定に失敗する。

Directory Server でバックエンド参照を設定すると、**dsconf <instance_name> backend suffix set --state referral** コマンドを使用したバックエンドの状態設定に失敗し、次のエラーが表示されます。

```
Error: 103 - 9 - 53 - Server is unwilling to perform - [] - need to set nsslapd-referral before moving to referral state
```

これにより、接尾辞の参照の設定に失敗します。この問題を回避するには、以下のコマンドを実行します。

1. **nsslapd-referral** パラメーターを手動で設定します。

```
# ldapmodify -D "cn=Directory Manager" -W -H ldap://server.example.com

dn: cn=dc\3Dexample\2Cdc\3Dcom,cn=mapping tree,cn=config
changetype: modify
add: nsslapd-referral
nsslapd-referral: ldap://remote_server:389/dc=example,dc=com
```

2. バックエンド状態を設定します。

```
# dsconf <instance_name> backend suffix set --state referral
```

その結果、回避策により、接尾辞の参照を設定できます。

(BZ#2063140)

レプリケーションマネージャーアカウントのパスワードを変更した後に **Directory Server** のレプリケーションに失敗する

Directory Server では、パスワード変更後に、レプリカ合意のパスワードキャッシュが適切に更新されません。そのため、レプリケーションマネージャーアカウントのパスワードを変更すると、レプリケーションが破損します。この問題を回避するには、Directory Server インスタンスを再起動します。その結果、キャッシュは起動時に再ビルドされ、レプリケーション接続は古いパスワードではなく新しいパスワードにバインドします。

(BZ#2101473)

389-ds-base パッケージの既知の問題

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の既知の問題は、Red Hat Enterprise Linux 8.7 リリースノートに記載されています。

- NSS で有効になっている暗号の **default** キーワードは、他の暗号とは機能しない (BZ#1817505)

第4章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.5

4.1. システム要件

このセクションでは、前提条件やプラットフォーム要件など、Directory Server 11.5 のインストールに関連する情報について説明します。

4.1.1. Directory Server でサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、AMD64 および Intel64 アーキテクチャー用に構築された Red Hat Enterprise Linux 8.6 でのみ Directory Server 11.5 をサポートします。

Directory Server 11.5 は、認定ハイパーバイザー上の Red Hat Enterprise Linux 仮想ゲストでの実行がサポートされています。詳細は、ナレッジベースソリューション [Red Hat Enterprise Linux の実行が認定されているハイパーバイザー](#) を参照してください。

4.1.2. Web コンソールの Directory Server ユーザーインターフェイスでサポートされているプラットフォーム

Red Hat は、以下の環境の Web コンソールでブラウザーベースの Directory Server ユーザーインターフェイスをサポートします。

オペレーティングシステム	ブラウザー
Red Hat Enterprise Linux 8.6	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 91.7.0 以降 ● Chrome 88 以降
Windows Server 2016 および 2019:	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 91.7.0 以降 ● Chrome 88 以降
Windows 10	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 91.7.0 以降 ● Microsoft Edge 88 以降 ● Chrome 88 以降

4.1.3. Windows Synchronization ユーティリティーでサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下で実行される Active Directory 用の Windows 同期ユーティリティーをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2019
- Microsoft Windows Server 2016

4.2. 主な更新と新機能

このセクションでは、Directory Server 11.5 の新機能と重要な更新について説明します。

Directory Server がバージョン 1.4.3.28 にリベース

389-ds-base パッケージがアップストリームバージョン 1.4.3.28 にアップグレードされ、以前のバージョンに対するバグ修正や機能強化が数多く追加されました。

- レプリカで潜在的なデッドロックが修正されました。
- **dnalInterval** が 0 に設定されていると、サーバーが予想外に終了しなくなりました。
- 接続処理のパフォーマンスが改善されました。
- アクセス制御命令 (ACI) での **targetfilter** のパフォーマンスが改善されました。

389-ds-base パッケージで強調表示された更新と新機能

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の機能は、Red Hat Enterprise Linux 8.6 リリースノートに記載されています。

- [Directory Server が、tmpfs ファイルシステムのデータベースのメモリーマッピングされたファイルを保存できるようになる](#)

4.3. テクノロジープレビュー

このセクションでは、Directory Server 11.5 でサポートされていないテクノロジープレビューについて説明します。

Directory Server Web コンソールは、テクノロジープレビューとして **LDAP** ブラウザーを提供します

LDAP ブラウザーが Directory Server Web コンソールに追加されました。Web コンソールの **LDAP Browser** タブを使用すると、次のことができます。

- ディレクトリーを参照する
- ユーザー、グループ、組織単位 (OU)、カスタムエントリーなどのエントリーを管理する
- ACI を管理する

Red Hat は、この機能をサポート対象外のテクノロジープレビューとして提供していることに注意してください。

389-ds-base パッケージのバグ修正

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server のバグ修正は、Red Hat Enterprise Linux 8.6 リリースノートに記載されています。

- [PBKDF2 ハッシュパスワードを使用した FIPS モードの Directory Server への認証が期待どおりに機能するようになりました。](#)

4.4. 既知の問題

このセクションでは、Directory Server 11.5 の既知の問題と、該当する場合の回避法について説明します。

Web コンソールのウィンドウ外部で変更された **Directory Server** の設定が自動的に表示されない

Red Hat Enterprise Linux 8 Web コンソールの Directory Server モジュールの設計により、ユーザーが

コンソールのウィンドウの外部で設定を変更しても、Web コンソールには自動的に最新の設定が表示されません。たとえば、Web コンソールが開いている間にコマンドラインを使用して設定を変更すると、Web コンソールで新しい設定が自動的に更新されません。これは、別のコンピューターの Web コンソールを使用して設定を変更する場合でも当てはまります。この問題を回避するには、コンソールのウィンドウ外部で設定が変更された場合は、ブラウザで Web コンソールを手動で更新します。

Directory Server で接尾辞の **referral** の設定に失敗する。

Directory Server でバックエンド参照を設定すると、**dsconf <instance_name> backend suffix set --state referral** コマンドを使用したバックエンドの状態設定に失敗し、次のエラーが表示されます。

```
Error: 103 - 9 - 53 - Server is unwilling to perform - [] - need to set nsslapd-referral before moving to referral state
```

これにより、接尾辞の参照の設定に失敗します。この問題を回避するには、以下のコマンドを実行します。

1. **nsslapd-referral** パラメーターを手動で設定します。

```
# ldapmodify -D "cn=Directory Manager" -W -H ldap://server.example.com

dn: cn=dc\3Dexample\2Cdc\3Dcom,cn=mapping tree,cn=config
changetype: modify
add: nsslapd-referral
nsslapd-referral: ldap://remote_server:389/dc=example,dc=com
```

2. バックエンド状態を設定します。

```
# dsconf <instance_name> backend suffix set --state referral
```

その結果、回避策により、接尾辞の参照を設定できます。

レプリケーションマネージャアカウントのパスワードを変更した後に **Directory Server** のレプリケーションに失敗する

Directory Server では、パスワード変更後に、レプリカ合意のパスワードキャッシュが適切に更新されません。そのため、レプリケーションマネージャアカウントのパスワードを変更すると、レプリケーションが破損します。この問題を回避するには、Directory Server インスタンスを再起動します。その結果、キャッシュは起動時に再ビルドされ、レプリケーション接続は古いパスワードではなく新しいパスワードにバインドします。

389-ds-base パッケージの既知の問題

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の既知の問題は、Red Hat Enterprise Linux 8.6 リリースノートに記載されています。

- NSS で有効になっている暗号の **default** キーワードは、他の暗号とは機能しない

第5章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.4

5.1. システム要件

このセクションでは、前提条件やプラットフォーム要件など、Directory Server 11.4 のインストールに関連する情報について説明します。

5.1.1. Directory Server でサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、AMD64 および Intel64 アーキテクチャー用に構築された Red Hat Enterprise Linux 8.5 のみ Directory Server 11.4 をサポートします。

Directory Server 11.4 は、認定ハイパーバイザー上の Red Hat Enterprise Linux 仮想ゲストでの実行がサポートされています。詳細は、ナレッジベースソリューション [Red Hat Enterprise Linux の実行が認定されているハイパーバイザー](#) を参照してください。

5.1.2. Web コンソールの Directory Server ユーザーインターフェイスでサポートされているプラットフォーム

Red Hat は、以下の環境の Web コンソールでブラウザーベースの Directory Server ユーザーインターフェイスをサポートします。

オペレーティングシステム	ブラウザー
Red Hat Enterprise Linux 8.5	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 78.14 以降 ● Chrome 85 以降
Windows Server 2016 および 2019:	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 78.14 以降 ● Chrome 85 以降
Windows 10	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 78.14 以降 ● Microsoft Edge 85 以降 ● Chrome 85 以降

5.1.3. Windows Synchronization ユーティリティーでサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下で実行される Active Directory 用の Windows 同期ユーティリティーをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2019
- Microsoft Windows Server 2016

5.2. 主な更新と新機能

このセクションでは、Directory Server 11.4 の新機能と重要な更新について説明します。

Directory Server がバージョン 1.4.3.27 にリベース

389-ds-base パッケージがアップストリームバージョン 1.4.3.27 にアップグレードされ、以前のバージョンに対するバグ修正や機能強化が数多く追加されました。主な変更点の一覧については、更新前にアップストリームのリリースノートを参照してください。

- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-24.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-23.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-22.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-21.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-20.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-19.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-18.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-17.html>

389-ds-base パッケージで強調表示された更新と新機能

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の機能は、Red Hat Enterprise Linux 8.5 リリースノートに記載されています。

- Directory Server が一時パスワードに対応
- Directory Server で **entryUUID** 属性のサポート
- **dnainTerval** 設定属性のサポート
- Directory Server は、レトロチェンジログデータベースから属性と接尾辞を除外できます。
- Directory Server は、ロックの枯渇によって生じるデータベースの破損を防ぐ監視設定を提供します。
- **nssslPersonalitySSL** の設定に役立つ新しいメッセージの追加

5.3. バグ修正

このセクションでは、Directory Server 11.4 で修正された、ユーザーに重大な影響を与えるバグについて説明します。

LDAPS URL の使用時に **dsconf** ユーティリティーが失敗しなくなりました

以前は、**dsconf** ユーティリティーはリモート接続の TLS 設定を正しく解決しませんでした。その結果、証明書の設定が正しい場合でも、リモート LDAPS URL で **dsconf** を使用すると、**certificate verify failed** エラーで失敗しました。**dsconf** 接続コードが修正されました。そのため、**dsconf** でリモート LDAPS URL を使用すると、期待どおりに動作するようになりました。

389-ds-base パッケージのバグ修正

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server のバグ修正は、Red Hat Enterprise Linux 8.5 リリースノートに記載されています。

- プラグインで作成したデータベースのインデックスが有効になる

- [レプリケーションセッションの更新速度の強化](#)

5.4. 既知の問題

このセクションでは、Directory Server 11.4 の既知の問題と、該当する場合の回避法について説明します。

Web コンソールのウィンドウ外部で変更された Directory Server の設定が自動的に表示されない

Red Hat Enterprise Linux 8 Web コンソールの Directory Server モジュールの設計により、ユーザーがコンソールのウィンドウの外部で設定を変更しても、Web コンソールには自動的に最新の設定が表示されません。たとえば、Web コンソールが開いている間にコマンドラインを使用して設定を変更すると、Web コンソールで新しい設定が自動的に更新されません。これは、別のコンピューターの Web コンソールを使用して設定を変更する場合でも当てはまります。この問題を回避するには、コンソールのウィンドウ外部で設定が変更された場合は、ブラウザで Web コンソールを手動で更新します。

Directory Server Web コンソールでは LDAP ブラウザーが提供されない

Web コンソールを使用すると、管理者は Directory Server 11 インスタンスを管理および設定できます。ただし、統合 LDAP ブラウザーは提供されません。Directory Server でユーザーおよびグループを管理するには、**dsidm** ユーティリティを使用します。ディレクトリーエントリーを表示および変更するには、サードパーティーの LDAP ブラウザー、または **openldap-clients** パッケージが提供する OpenLDAP クライアントユーティリティを使用します。

389-ds-base パッケージの既知の問題

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の既知の問題は、Red Hat Enterprise Linux 8.5 リリースノートに記載されています。

- [NSS で有効になっている暗号の **default** キーワードは、他の暗号とは機能しない](#)

第6章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.3

6.1. システム要件

このセクションでは、前提条件やプラットフォーム要件など、Directory Server 11.3 のインストールに関連する情報について説明します。

6.1.1. Directory Server でサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下のプラットフォームで Directory Server 11.3 をサポートしています。

- AMD64 および Intel64 アーキテクチャー向けに構築された Red Hat Enterprise Linux 8.4。



注記

Directory Server 11.3 は、認定ハイパーバイザー上の Red Hat Enterprise Linux 仮想ゲストでの実行がサポートされています。詳細は、ナレッジベースソリューション [Red Hat Enterprise Linux の実行が認定されているハイパーバイザー](#) を参照してください。

6.1.2. Web コンソールの Directory Server ユーザーインターフェイスでサポートされているプラットフォーム

Red Hat は、以下の環境の Web コンソールでブラウザーベースの Directory Server ユーザーインターフェイスをサポートします。

オペレーティングシステム	ブラウザー
Red Hat Enterprise Linux 8.4	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 78.7 以降 ● Chrome 58 以降
Windows Server 2016 および 2019:	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 78.7 以降 ● Chrome 58 以降
Windows 10	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 78.7 以降 ● Microsoft Edge 16 以降 ● Chrome 58 以降

6.1.3. Windows Synchronization ユーティリティーでサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下で実行される Active Directory 用の Windows 同期ユーティリティーをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2019

- Microsoft Windows Server 2016

6.2. 主な更新と新機能

このセクションでは、Directory Server 11.3 の新機能と重要な更新について説明します。

Directory Server がバージョン 1.4.3.16 にリベースされました。

389-ds-base パッケージがアップストリームバージョン 1.4.3.16 にアップグレードされ、以前のバージョンに対するバグ修正や機能強化が数多く追加されました。主な変更点の一覧は、更新前にアップストリームのリリースノートを参照してください。

- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-16.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-15.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-14.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-13.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-12.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-11.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-10.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-9.html>

389-ds-base パッケージで強調表示された更新と新機能

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の機能は、Red Hat Enterprise Linux 8.4 リリースノートに記載されています。

- Directory Server が、インデックス化されていない内部検索を拒否するようになりました。
- Directory Server はレプリケーションアグリーメントブートストラップクレデンシャルの設定をサポート
- dsidm ユーティリティーはエントリーの名前変更と移動をサポート
- Directory Server は **RESULT** エントリーで作業および操作時間を記録
- スループットを向上させるために、**nsslapd-nagle** のデフォルト値がオフになっている

6.3. バグ修正

このセクションでは、Directory Server 11.3 で修正された、ユーザーに重大な影響を与えるバグについて説明します。

lib389 ライブラリーが、**Account** オブジェクトで検出されたエントリーの削除に失敗しなくなりました。

以前は、**lib389** ライブラリーの **Account** オブジェクトの **_protected** フラグが有効化されていました。そのため、**delete** 操作に失敗していました。今回の更新により、フラグが **False** に設定されるようになりました。その結果、**Account** オブジェクトによって検出されたエントリーを削除したり、名前を変更したりしても、ライブラリーが失敗しなくなりました。

389-ds-base パッケージのバグ修正

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server のバグ修正は、Red Hat Enterprise Linux 8.4 リリースノートに記載されています。

- [証明書ベースの認証でのレプリケーションアグリーメントの作成が想定どおりに動作](#)

6.4. 既知の問題

このセクションでは、Directory Server 11.3 の既知の問題と、該当する場合の回避法について説明します。

Web コンソールのウィンドウ外部で変更された Directory Server の設定が自動的に表示されない

Red Hat Enterprise Linux 8 Web コンソールの Directory Server モジュールの設計により、ユーザーがコンソールのウィンドウの外部で設定を変更しても、Web コンソールには自動的に最新の設定が表示されません。たとえば、Web コンソールが開いている間にコマンドラインを使用して設定を変更すると、Web コンソールで新しい設定が自動的に更新されません。これは、別のコンピューターの Web コンソールを使用して設定を変更する場合でも当てはまります。この問題を回避するには、コンソールのウィンドウ外部で設定が変更された場合は、ブラウザで Web コンソールを手動で更新します。

Directory Server Web コンソールでは LDAP ブラウザーが提供されない

Web コンソールを使用すると、管理者は Directory Server 11 インスタンスを管理および設定できます。ただし、統合 LDAP ブラウザーは提供されません。Directory Server でユーザーおよびグループを管理するには、**dsidm** ユーティリティを使用します。ディレクトリーエントリーを表示および変更するには、サードパーティーの LDAP ブラウザー、または **openldap-clients** パッケージが提供する OpenLDAP クライアントユーティリティを使用します。

第7章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.2

7.1. システム要件

このセクションでは、前提条件やプラットフォーム要件など、Directory Server 11.2 のインストールに関連する情報について説明します。

7.1.1. Directory Server でサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下のプラットフォームで Directory Server 11.2 をサポートしています。

- AMD64 および Intel64 アーキテクチャー向けに構築された Red Hat Enterprise Linux 8.3。



注記

Directory Server 11.2 は、認定ハイパーバイザー上の Red Hat Enterprise Linux 仮想ゲストでの実行がサポートされています。詳細は、ナレッジベースソリューション [Red Hat Enterprise Linux の実行が認定されているハイパーバイザー](#) を参照してください。

7.1.2. Web コンソールの Directory Server ユーザーインターフェイスでサポートされているプラットフォーム

Red Hat は、以下の環境の Web コンソールでブラウザーベースの Directory Server ユーザーインターフェイスをサポートします。

オペレーティングシステム	ブラウザー
Red Hat Enterprise Linux 8.3	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 68.9 以降 ● Chrome 58 以降
Windows Server 2016 および 2019:	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 68.9 以降 ● Chrome 58 以降
Windows 10	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 68.9 以降 ● Microsoft Edge 16 以降 ● Chrome 58 以降

7.1.3. Windows Synchronization ユーティリティーでサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下で実行される Active Directory 用の Windows 同期ユーティリティーをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2019

- Microsoft Windows Server 2016

7.2. 主な更新と新機能

このセクションでは、Directory Server 11.2 の新機能と重要な更新について説明します。

Directory Server がバージョン 1.4.3.8 にリベース

389-ds-base パッケージがアップストリームバージョン 1.4.3.8 にアップグレードされ、以前のバージョンに対するバグ修正や機能強化が数多く追加されました。主な変更点の一覧については、更新前にアップストリームのリリースノートを参照してください。

- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-8.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-7.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-6.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-5.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-4.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-3.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-2.html>
- <https://www.port389.org/docs/389ds/releases/release-1-4-3-1.html>

389-ds-base パッケージで強調表示された更新と新機能

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の機能は、Red Hat Enterprise Linux 8.3 リリースノートに記載されています。

- Directory Server は、サービスの起動時にプライベートキーと証明書をプライベート名前空間にエクスポートします。
- Directory Server での pwdReset 操作属性のサポート
- ディスクの監視のしきい値に達すると、Directory Server がインスタンスの読み取り専用モードに切り替わるようになりました。
- Directory Server は RESULT エントリーで作業および操作時間を記録

7.3. バグ修正

このセクションでは、Directory Server 11.2 で修正された、ユーザーに重大な影響を与えるバグについて説明します。

389-ds-base パッケージのバグ修正

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server のバグ修正は、Red Hat Enterprise Linux 8.3 リリースノートに記載されています。

- 間接的な CoS 定義を使用時の、Directory Server でのメモリーリークを修正

7.4. 既知の問題

このセクションでは、Directory Server 11.2 の既知の問題と、該当する場合の回避法について説明します。

Web コンソールのウィンドウ外部で変更された **Directory Server** の設定が自動的に表示されない

Red Hat Enterprise Linux 8 Web コンソールの Directory Server モジュールの設計により、ユーザーがコンソールのウィンドウの外部で設定を変更しても、Web コンソールには自動的に最新の設定が表示されません。たとえば、Web コンソールが開いている間にコマンドラインを使用して設定を変更すると、Web コンソールで新しい設定が自動的に更新されません。これは、別のコンピューターの Web コンソールを使用して設定を変更する場合でも当てはまります。この問題を回避するには、コンソールのウィンドウ外部で設定が変更された場合は、ブラウザで Web コンソールを手動で更新します。

Directory Server Web コンソールでは **LDAP** ブラウザーが提供されない

Web コンソールを使用すると、管理者は Directory Server 11 インスタンスを管理および設定できます。ただし、統合 LDAP ブラウザーは提供されません。Directory Server でユーザーおよびグループを管理するには、**dsidm** ユーティリティを使用します。ディレクトリーエントリーを表示および変更するには、サードパーティーの LDAP ブラウザー、または **openldap-clients** パッケージが提供する OpenLDAP クライアントユーティリティを使用します。

第8章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.1

8.1. システム要件

このセクションでは、前提条件やプラットフォーム要件など、Directory Server 11.1 のインストールに関連する情報について説明します。

8.1.1. Directory Server でサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下のプラットフォームで Directory Server 11.1 をサポートしています。

- AMD64 および Intel64 アーキテクチャー向けに構築された Red Hat Enterprise Linux 8.2。



注記

Directory Server 11.1 は、認定ハイパーバイザー上の Red Hat Enterprise Linux 仮想ゲストでの実行がサポートされています。詳細は、ナレッジベースソリューション [Red Hat Enterprise Linux の実行が認定されているハイパーバイザー](#) を参照してください。

8.1.2. Web コンソールの Directory Server ユーザーインターフェイスでサポートされているプラットフォーム

Red Hat は、以下の環境の Web コンソールでブラウザーベースの Directory Server ユーザーインターフェイスをサポートします。

オペレーティングシステム	ブラウザー
Red Hat Enterprise Linux 8.2	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 68.3 以降 ● Chrome 58 以降
Windows Server 2016 および 2019:	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 68.3 以降 ● Chrome 58 以降
Windows 10	<ul style="list-style-type: none"> ● Mozilla Firefox 68.3 以降 ● Microsoft Edge 16 以降 ● Chrome 58 以降

8.1.3. Windows Synchronization ユーティリティーでサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下で実行される Active Directory 用の Windows 同期ユーティリティーをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2019

- Microsoft Windows Server 2016

8.2. 強調表示された更新と新機能

このセクションでは、Directory Server 11.1 の新機能と重要な更新について説明します。

Directory Server がバージョン 1.4.2.4 にリベースされました。

389-ds-base パッケージがアップストリームバージョン 1.4.2.4 にアップグレードされ、以前のバージョンに対するバグ修正および機能拡張が数多く追加されました。主な変更点の一覧は、更新前にアップストリームのリリースノートを参照してください。

- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-2-4.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-2-3.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-2-2.html>
- <https://directory.fedoraproject.org/docs/389ds/releases/release-1-4-2-1.html>

Directory Server にヘルスチェック機能が追加

この改良により、Directory Server にヘルスチェック機能が追加されます。**dsctl healthcheck** コマンドは、Directory Server インスタンスで読み取り専用の操作を実行し、たとえば、インスタンスが正しく設定されている場合や、レプリカ合意が正しく機能している場合などです。

389-ds-base パッケージで強調表示された更新と新機能

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の機能は、Red Hat Enterprise Linux 8.2 リリースノートに記載されています。

- Directory Server で一部のレガシースクリプトが置き換えられる
- Directory Server が、システム全体の暗号化ポリシーに基づいて `sslVersionMin` パラメーターを設定する

8.3. バグ修正

このセクションでは、Directory Server 11.1 で修正された、ユーザーに重大な影響を与えるバグについて説明します。

389-ds-base パッケージのバグ修正

389-ds-base パッケージに含まれる Red Hat Directory Server のバグ修正は、Red Hat Enterprise Linux 8.2 リリースノートに記載されています。

- Directory Server インスタンス名が、最大 103 文字になる
- `dsctl` ユーティリティが、名前にハイフンが付いたインスタンスの管理に失敗しなくなる

8.4. 既知の問題

このセクションでは、Directory Server 11.1 の既知の問題と、該当する場合の回避法について説明します。

Web コンソールのウィンドウ外部で変更された **Directory Server** の設定が自動的に表示されない

Red Hat Enterprise Linux 8 Web コンソールの Directory Server モジュールの設計により、ユーザーがコンソールのウィンドウの外部で設定を変更しても、Web コンソールには自動的に最新の設定が表示さ

れません。たとえば、Web コンソールが開いている間にコマンドラインを使用して設定を変更すると、Web コンソールで新しい設定が自動的に更新されません。これは、別のコンピューターの Web コンソールを使用して設定を変更する場合でも当てはまります。この問題を回避するには、コンソールのウィンドウ外部で設定が変更された場合は、ブラウザで Web コンソールを手動で更新します。

Directory Server Web コンソールでは LDAP ブラウザーが提供されない

Web コンソールを使用すると、管理者は Directory Server 11 インスタンスを管理および設定できます。ただし、統合 LDAP ブラウザーは提供されません。Directory Server でユーザーおよびグループを管理するには、**dsidm** ユーティリティを使用します。ディレクトリーエントリーを表示および変更するには、サードパーティーの LDAP ブラウザー、または **openldap-clients** パッケージが提供する OpenLDAP クライアントユーティリティを使用します。

389-ds-base パッケージの既知の問題

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の既知の問題は、Red Hat Enterprise Linux 8.2 リリースノートに記載されています。

- [Directory Server が、検索フィルターで使用されている属性がスキーマに欠如している場合に警告する](#)

8.5. 削除された機能

このセクションでは、Directory Server 11.1 から削除された機能について説明します。

nunc-stans フレームワークの削除

nunc-stans フレームワークが Directory Server から削除されました。サーバーは、Directory Server で改善されたコア接続処理メカニズムを使用するようになりました。

以前にフレームワークを手動で有効にした場合は、Directory Server は次の警告をログに記録します。

```
WARN - slapd_daemon - cn=config: nsslapd-enable-nunc-stans is on. nunc-stans has been
deprecated and this flag is now ignored.
WARN - slapd_daemon - cn=config: nsslapd-enable-nunc-stans should be set to off or deleted from
cn=config.
```

Directory Server がこの警告をログに記録しないようにするには、**cn=config** エントリーから **nsslapd-enable-nunc-stans** を削除します。

```
$ ldapmodify -D "cn=Directory Manager" -W -p 389 -h server.example.com -x
dn: cn=config
changetype: modify
delete: nsslapd-enable-nunc-stans
```

第9章 RED HAT DIRECTORY SERVER 11.0

9.1. システム要件

このセクションでは、前提条件やプラットフォーム要件など、Directory Server 11.0 のインストールに関連する情報について説明します。

9.1.1. Directory Server でサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下のプラットフォームで Directory Server 11.0 をサポートしています。

- AMD64 および Intel64 アーキテクチャー向けに構築された Red Hat Enterprise Linux 8.1。



注記

Directory Server 11.0 は、認定ハイパーバイザー上の Red Hat Enterprise Linux 仮想ゲストでの実行がサポートされています。詳細は、ナレッジベースソリューション [Red Hat Enterprise Linux の実行が認定されているハイパーバイザー](#) を参照してください。

9.1.2. Web コンソールの Directory Server ユーザーインターフェイスでサポートされているプラットフォーム

Red Hat は、以下の環境の Web コンソールでブラウザーベースの Directory Server ユーザーインターフェイスをサポートします。

オペレーティングシステム	ブラウザー
Red Hat Enterprise Linux 8.1	<ul style="list-style-type: none"> • Mozilla Firefox 52 以降 • Chrome 57 以降
Windows Server 2016	<ul style="list-style-type: none"> • Mozilla Firefox 52 以降 • Microsoft Internet Explorer 11 • Chrome 57 以降
Windows 10	<ul style="list-style-type: none"> • Mozilla Firefox 52 以降 • Microsoft Edge 16 以降 • Microsoft Internet Explorer 11 • Chrome 57 以降

9.1.3. Windows Synchronization ユーティリティーでサポートされるプラットフォーム

Red Hat は、以下で実行される Active Directory 用の Windows 同期ユーティリティをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2016

9.2. 主な更新と新機能

このセクションでは、Directory Server 11.0 の新機能と重要な更新について説明します。

インスタンスを管理するための新しいコマンドラインユーティリティの導入

Red Hat Directory Server 11.0 では、**dscreate** ユーティリティ、**dsconf** ユーティリティ、および **dsctl** ユーティリティが追加されました。これらのユーティリティは、コマンドラインを使用して Directory Server の管理を簡素化します。たとえば、複雑な LDIF ステートメントをサーバーに送信する代わりに、パラメーターとコマンドを使用して機能を設定できるようになりました。

次に、各ユーティリティの目的の概要を示します。

- **dscreate** ユーティリティを使用して、インタラクティブモードまたは INF ファイルを使用して新しい Directory Server インスタンスを作成します。INF ファイル形式は、インストーラーがこれまでのバージョンの Directory Server で使用していた形式とは異なることに注意してください。
- **dsconf** ユーティリティを使用して、ランタイム時に Directory Server インスタンスを管理します。たとえば、**dsconf** を使用して以下を行います。
 - **cn=config** エントリの設定
 - プラグインの設定
 - レプリケーションの設定
 - インスタンスのバックアップと復元
- **dsctl** ユーティリティを使用してオフライン時に Directory Server インスタンスを管理します。たとえば、**dsctl** を使用して以下を行います。
 - インスタンスの起動と停止
 - サーバーデータベースの再インデックス化
 - インスタンスのバックアップと復元

これらのユーティリティは、Directory Server 10 で非推奨となった Perl スクリプトとシェルスクリプトに代わるものです。このスクリプトは、サポート対象外の **389-ds-base-legacy-tools** パッケージで引き続き利用できますが、Red Hat は、新しいユーティリティを使用した Directory Server の管理のみをサポートします。

LDIF ステートメントを使用した Directory Server の設定は引き続きサポートされますが、Red Hat はユーティリティの使用を推奨します。

ユーティリティの使用方法は、[Red Hat Directory Server 11 ドキュメント](#) を参照してください。

Directory Server によるブラウザーベースのユーザーインターフェイスの提供

この改良により、これまでのバージョンで使用された Java ベースのコンソールに代わるブラウザーベースのインターフェイスが Red Hat Directory Server に追加されます。そのため、管理者は Red Hat Enterprise Linux Web コンソールを使用して、ブラウザーを使用した Directory Server インスタンスの管理を行えるようになりました。

詳細は、[Red Hat Directory Server 11 ドキュメント](#) を参照してください。

ブラウザーベースのユーザーインターフェイスには LDAP ブラウザーが含まれていないことに注意してください。

nsslapd-unhashed-pw-switch パラメーターのデフォルト値が **off** になりました。

たとえば、パスワードを Active Directory (AD) と同期する場合、Directory Server プラグインは暗号化されていないパスワードをハードディスクに保存する必要があります。**nsslapd-unhashed-pw-switch** 設定パラメーターは、Directory Server が暗号化されていないパスワードを保存するかどうかと方法を決定します。暗号化されていないパスワードを保存するためにプラグインを必要としないシナリオでセキュリティを強化するために、**nsslapd-unhashed-pw-switch** パラメーターのデフォルト値は、Directory Server 11.0 で **on** から **off** に変更になりました。

AD とパスワード同期を設定する場合は、Windows 同期合意が設定された Directory Server インスタンスで **nsslapd-unhashed-pw-switch** を手動で有効にします。

```
# dsconf -D "cn=Directory Manager" ldap://server.example.com config replace nsslapd-unhashed-pw-switch=on
```

389-ds-base パッケージで強調表示された更新と新機能

389-ds-base パッケージに含まれている Red Hat Directory Server の機能は、Red Hat Enterprise Linux 8.1 リリースノートに記載されています。

- [Directory Server で新しいパスワード構文の確認](#)
- [Directory Server が提供する内部操作ログへの対応が改善](#)

9.3. 既知の問題

このセクションでは、Directory Server 11.0 の既知の問題と、該当する場合の回避法について説明します。

Web コンソールのウィンドウ外部で変更された Directory Server の設定が自動的に表示されない

Red Hat Enterprise Linux 8 Web コンソールの Directory Server モジュールの設計により、ユーザーがコンソールのウィンドウの外部で設定を変更しても、Web コンソールには自動的に最新の設定が表示されません。たとえば、Web コンソールが開いている間にコマンドラインを使用して設定を変更すると、Web コンソールで新しい設定が自動的に更新されません。これは、別のコンピューターの Web コンソールを使用して設定を変更する場合でも当てはまります。この問題を回避するには、コンソールのウィンドウ外部で設定が変更された場合は、ブラウザーで Web コンソールを手動で更新します。

Directory Server Web コンソールでは LDAP ブラウザーが提供されない

Web コンソールを使用すると、管理者は Directory Server 11 インスタンスを管理および設定できます。ただし、統合 LDAP ブラウザーは提供されません。Directory Server でユーザーおよびグループを管理するには、**dsidm** ユーティリティを使用します。ディレクトリーエントリを表示および変更するには、サードパーティーの LDAP ブラウザー、または **openldap-clients** パッケージが提供する OpenLDAP クライアントユーティリティを使用します。